

令和4年度
自己評価・学校関係者評価結果報告書

評価対象期間
令和4年4月～令和5年3月

令和5年8月

学校法人博多学園
博多メディカル専門学校
学校関係者評価委員会

1. 目的

学生が質の高い実践的な職業教育を受けられるよう、学校運営の改善と発展を目指すため学校評価（自己評価・学校関係者評価）を実施する。

実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価する。評価結果に基づき、学校として組織的・継続的な改善を図る。

2. 学校関係者評価

卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、令和4年度の学校業務について、学校自ら行った自己評価の結果について評価を行い、改善に向け専門的な助言を行う。

3. 評価項目

- ・自己評価の内容が適切であるか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切であるか
- ・学校の重点目標や具体的方策等が適切であるか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取組が適切であるか

4. 組織

(1) 学校関係者評価委員会委員（令和5年8月現在）

石松 弘行	(株) アイディック 代表取締役 本校卒業生（歯科技工士科28期）
古賀 直子	一般社団法人 福岡県歯科衛生士会 副会長
篠崎 陽介	しのぎき歯科医院 副院長
下田 英津子	一般社団法人 福岡県臨床工学技士会 副会長 本校卒業生（臨床工学技士科1期）
武部 愛子	福岡こども短期大学 特任教授 福岡市教育委員会 教育委員

(2) 任期

令和4年4月から令和5年3月まで

(ただし、新任である古賀委員・篠崎委員については令和6年3月まで)

5. 評価委員会の開催記録

第1回学校関係者評価委員会 令和5年7月10日（月）開催 委員5名

第2回学校関係者評価委員会 令和5年8月29日（火）開催 委員5名

なお、いずれもWEB開催。本校より以下の教職員が出席している。

大峰 礼子	副校長
橋口 良太	事務長
山田 誠	歯科技工士科 教務主任
植木 美佐	歯科衛生士科 教務主任
池永 栄	臨床工学技士科 教務主任

6. 評価要領

自己評価書を学校関係者評価委員に事前配付。学校関係者評価委員会を開催し、自己評価結果について説明をした上で、学校関係者としての評価を実施した。

なお、会議の進行および事務については学校が行い、自己評価結果に対する公正な評価に努めている。

7. 評価項目の達成および取組状況

(1) 教育理念・目標

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
1-2	学校における職業教育の特色は明確になっているか	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人物像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか（コース修了後に、学習者がそのコンピテンスのレベルを必要とする目的や状況が明確にされているか）	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

○教育課程編成員・学校関係者評価委員の方々からのアドバイスを受け、より特色ある学校づくりができるようになった。また、高等教育の修学支援新制度を受けていることにより、学生の経済的な問題の軽減を図ることができている。

【教育課程編成委員会】 ⇒ 令和5年1月、2月に3科共実施。更に、CE科ではカリキュラム変更に伴う臨時での委員会を6月に2回実施。

【学校関係者評価委員会】 ⇒ 令和4年6月、8月に実施。

- 「創立50周年記念式典」を令和4年11月6日(日)ソラリア西鉄ホテル福岡にて実施。出席者114名を迎えることができた(案内状188名送付。祝儀43件・祝電22通・花17基受領)。「ステークホルダーに感謝を伝え信頼関係を深めること」「学校の価値を伝え、未来へのビジョンを共有すること」等、当初の目的を達成。優しく暖かい雰囲気の中盛会裏に終えることができた。
- 職業実践専門課程認定校としての「企業連携授業」を今年度も実施した(歯科技工士科：4回、歯科衛生士科：8回、臨床工学技士科：11回)。いずれも実践的な最先端の医療技術に触れることで学生の向学意識も高まり、かつ企業側においても学生への企業PRの場となり、今後ますますその相乗効果が期待できる。
- 高専連携について、歯科衛生士の業務内容やその魅力を、高等学校、行政、業界団体と連携して広く社会に普及させ、高校性の歯・口の健康づくりとキャリア意識の向上をテーマにプログラムの開発と実証を行い、地域口腔保健の中核を担う人材を育成する。実施委員会には校長が構成員として出席し、事業活の方針を策定し各機関の連携状況の確認専門部会への指示を主な業務として実施。広報部会には副校長が構成員として出席し、ホームページ、広報用ポスター案および配布先の検討、専修学校委託事業成果PR動画の作成を主におこなった。2月には令和4年度の成果報告書、3月には成果PR動画も完成した。
(実施委員会会議(Web)2回、広報部会会議6回出席)

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・各学科において、実際に取り組んだ「企業連携授業」の内容について確認した。
- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(2) 学校運営

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
2-4	人事・給与に関する制度は整備されているか	4
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- 毎月、管理職会議、校務運営会議、8・12・3月以外各科職員会議を実施。また、科別に教務会議も適宜実施し、情報共有を行い教務の円滑化を図っている。
- 本校教職員において「委員会組織」を編成し、学校内外の課題解決に向けて学科・事務職員の枠を超えて取り組んでいる。令和4年度は12の委員会（50周年委員会については、更に3つの小委員会を設置）によって、よりよい学校づくりに向け取り組んでいる。
- 給与・人事や財務等については、学校法人博多学園の方針に基づき円滑に対応できるよう、法人全体としての体制整備がなされている。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(3) 教育活動

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
3-1	教育理念・到達目標に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-3	学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
3-5	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
3-6	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
3-7	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-8	人材育成目標に向けて授業が行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-9	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	4
3-10	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- カリキュラムポリシーを軸としたカリキュラムに基づき授業を実施。今年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大予防のためオンライン授業や実施内容の見直し等を行い、学びを止めない取り組みを継続した。
- 今年度もコロナにより中止や内容変更等を余儀なくされ計画通りに実施できなかった事が多かったと思う。今後も「全ては学生の最善の利益のために」を常に念頭におき、できうる限りの取り組みを実施したい。
- 今年度も外部研修は、時期や会場によって集合型での研修会も開催されたので自己研鑽に努めている。コロナの状況から関係団体や他団体でも無料のオンラインやオンデマンドでの研修も多く実施されているため、専門分野だけでなく他興味深い内容の研修も積極的に受講し教員としての資質の向上に努めたい。教員の資質の向上は教育の質の向上にも繋がることから他校との差別化を図る上で重要である。また、年3回の校内研修では「最新の教育アプリ」や「業務負担軽減のシステムやアプリ」など企業のプレゼンを実施、「各科の課題検討」などFD、SDの実践に取り組んでいる。次年度も専門学校信頼宣言にあげている「質の高い教育のため、教員は、自己研鑽に努めます」を実行し学生に反映させていく。
- 「教育課程編成委員会」とのCE科新カリキュラムの内容の検討については、昨年度(令和3年度)の2月と、今年度臨時として6月に2回実施した。CE科で検討を重ねた教育内容・単位数・教育目標及び実施学年の時間数等を評価頂いた。臨床実習施設への新カリキュラム説明会も8月・9月に実施し、28施設40名の指導者の方に出席頂いた。実習指導者には厚生労働省指定の実習指導者講習の受講、また告示研修(臨床工学技士の業務追加による厚生労働大臣指定による研修)の受講等の負担が強られるが、現状では随時受講頂いている状況である。教員も順次告示研修を受講し新カリキュラムの対応準備を進める。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・遅刻や欠席が多いように見受けられる。遅刻や欠席をする際の学校への届出についての状況や指導内容について確認した。
- ・学校としては「国語力の強化(国語力の低下に対する措置)」を課題としているが、現状や具体的な対策等について確認した。
- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(4) 教育成果

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
4-1	就職率の向上が図られているか	3
4-2	資格取得の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	3
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- 「フリーライン」（国家試験対策）のシステムの活用や、学生の履修状況を踏まえた様々な取り組みを各科計画実施し結果に繋げる努力は素晴らしいと感じる。しかし、学生の学力や集中力の低下が年々顕著になってきている状況を踏まえ、早期から地道に力を付けさせる働きかけの手法として記憶定着アプリの「モノグサ」を令和5年度より導入する。歯科技工士科でトライアルとして実施した結果を見ても効果的であることが伺えるため、是非教員全員で取り組んで頂き効果的な運用によって最終的には国家試験合格へと繋げたい。学校信頼宣言の「入学した学生は国家試験に合格させる」を実行し、次年度こそ3科全員国家試験合格を達成させる。
- 担任・副担任・教務主任は学生本人との面談や保護者への連絡など、常に「ゼロ」へ向けての対策は取っているが、退学者が発生している状況である。昨年同様コロナ禍で複合的な問題から精神的に疲弊している学生も多いと思われる。今年度スクールカウンセラーを2名に増員した。適所でスクールカウンセラーの力を借りながら早めに対処し、博多メデイカル SDGs として掲げている4(質の高い教育をみんなに)、5(ジェンダー平等を実現)を実践し、引き続き「退学者・休学者ゼロ」へ向けての対応を強化したい。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・スクールカウンセラーの増員だけでなく、定期的なスクールカウンセラーの学校訪問等による予防的な活動の必要性を確認した。
(→令和5年度中に試行を進め、今後の学生フォローに向けた運用を進めたい。)
- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(5) 学生支援

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
5-1	基本的な生活習慣の確立のために取り組んでいるか	4
5-2	進学・就職活動にかかる支援体制は組まれているか	4
5-3	学生・保護者からの相談体制が組まれているか	3
5-4	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
5-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5-6	保護者と適切に連携しているか	4
5-7	卒業生への支援体制はあるか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- オープンキャンパスの内容や対応、学校生活における対応や支援、就職のサポートや卒業後の支援等、数ある専門学校の中から本校を選んでもくれた学生に感謝して、サポートを継続したい。
- 在校生や卒業生が後輩に勧めてくれる学校を目指す。そのためにも質の高い教育を実践し、学生満足度を高めることが肝要である。
- ホームカミングデー（卒業生の集う機会の提供）の開催や、就職先企業への訪問など、卒業後の学生動向の情報把握に努めている。同窓会の50周年を控えていることから、同窓会との連携をより強固なものとし、学校力を高めるための活動を継続させていく。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・学生のSNS利用において、友人関係でのSNS上のトラブルが発生したことを確認した。
- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(6) 教育環境

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4
6-3	防災に対する体制は整備されているか	3

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- 感染予防対策として教室の拡大や多目的ホールの利用は今年度も引き続き行った。コロナ対策だけでなく、豪雨や豪雪などの自然災害時に登校できない学生対応としてリモート授業で即対応するなど学びを止めない工夫によって、全学年無事単位取得に繋がった。また、オンライン授業の資料や伝達事項についても各科の状況に合わせた手法によって不備がないように実施するなど、教員のスキルと対応力の高さを感じた。今後もオンラインを併用した学びを視野に入れて取り組んで頂きたい。授業の効率化を図るため、歯科技工士の2教室を1教室に改修する工事にも令和5年3月に完了させている。
- iPad 導入については、各科の状況により使用頻度に差があるため一斉にとは難しいのが現状である。今年度臨床工学技士科において届出制で持ち込みを許可したが、ルールを決めて運用できていた。学生使用のWi-Fi環境や各科の運用状況等もう少し検討が必要。Z世代学生の状況を加味しながらICTを活用した教育の研究を進める。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(7) 学生の受入募集

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
7-1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
7-3	学納金は妥当なものとなっているか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- 令和5年度の入学生は、OE 32名（定員対比80.0%）、DT 27名（同84.4%）、DH 42名（同84.0%）、合計101名（同82.8%）である。
- 高専一貫教育プログラムとして、12月と1月に全校生徒を対象に歯科保健教育を実施し、高校生の歯・口の健康づくりとそれを担う歯科衛生士、歯科技工士についても説明を行った（歯科保健教育プログラムの12月実施時には、分野横断連絡調整会議有識者が参観）。また、「30歳の笑顔プロジェクト」として博多高等学校の進路部長と連携し令和3年度末、2年生全員を対象に歯科技工士に特化した内容での説明会を実施。その効果として今年度歯科技工士科へ7名の入学者を得ることができた。今年度も3月に1、2年生を対象とした校内お仕事スタジアム、2年生普通科を対象とした本校3科の説明会を実施。この成果を次年度の入学実績に繋げていきたい。
- インスタグラムには学生の学校生活の様子や授業、実習、学校・科の行事など積極的にアップしている。教員ブログは各科担当を決め2週間に一度の更新をお願いしているが科に

よってバラつきがあるので、教員目線の学生の様子や学科の取り組みを積極的な外部へのアピールを続けたい。リクルートによる SA 研修は 5 月に実施し、SA としての役割の意識付けを図った。3 月に行う予定であったフィードバック研修は日程調整が上手くいかず実施できなかった。次年度は早目に調整を行い実施するように留意する。歯科技工士科の特化リーフレットは、卒業生や企業の協力を得てデジタル歯科技工や職場環境を理解できる内容で構成されている。これまでのイメージを払拭させる内容に仕上がっていることから、高校教員や生徒にインパクトを与えられるのではないかと期待が持てる。

○オンライン体験入学 6 回・高校ガイダンス 31 回実施。中でも、オンライン体験入学は 5 名の参加者中 4 名が出願に繋がった(出願率 80%)。

○3 科共に定員を確保できなかった。この結果をしっかりと受け止め原因をしっかりと分析し対応策を練り、次年度は全員で危機意識を共有し募集活動、学生指導に取り組む。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・「指定校推薦入学試験」についての内容を確認した。
- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(8) 財務

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
8-1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

○学校法人博多学園の運営において、適正な対応がなされているといえる。健全な学校運営のためには学生の確保が喫緊の課題であるため、引き続き募集活動および退学者低減のために取り組んでいく。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(9) 法令等の遵守

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
9-1	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
9-3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
9-4	自己評価結果を公表しているか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- 学校法人博多学園の方針に基づき法令遵守については自己点検を適宜進めており、改正個人情報保護法への対応など、着実に取り組んでいる。
- 自己評価を実施し、個別の課題点をクリアできるように検討しているが、現状の課題点を整理し、解決に向けての課題共有に取り組むレベルには至っていないため、今後については自己評価の実施から課題共有・課題解決を図るまでの制度化に向けて取り組むように改善する。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(10) 社会貢献・地域貢献

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
10-1	学校に教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- コロナ禍において、ここ数年の間は実施を控えていた課題のひとつであるため、次年度以降は積極的に取り組めるように、関係者・関係団体等と適宜協議を進めたい。
- 「50周年 Vision:Mission」を達成するための中長期的な目標として「博多メディカル専門学校 SDGs(3・4・5・17)」を掲げ、50周年事業として学生によるペットボトル分別啓発活動やごみ拾い大会の実施、古着でワクチンの取り組みを行っている。

3. 全ての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現

17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・適切な自己評価がなされていると認められる。

(11) 国際交流

No.	評価項目 適切－4、ほぼ適切－3、やや不適切－2、不適切－1	評価
11-1	学習成果が国内外で評価される取組を取っているか	3
11-2	国際交流に取り組んでいるか	4

<課題・今後の改善方策・特記事項>

- 昨年度歯科技工士科が取り組んだインドネシア dopang(歯科医療グループ)との連携リモート教育の成果が、今年度はインドネシア国立アイルランガ大学の歯学部学生への授業へと発展した。3年生40名の学生に3回実施し、今回も高評価を得ることができた。来年度も継続して依頼を受けている。
- 韓国の釜山カトリック大学との姉妹校交流も、次年度は復活の方向で進行している。コロナ禍でリモートによる教育の実施や会議等の交流についての技術も会得したことから、他科も含め国際交流の活性化にも力を入れて頂きたい。

<学校関係者評価委員会の評価等>

- ・適切な自己評価がなされていると認められる。